

『図説 わかる土木計画』初版第1刷 正誤表  
 本書において下記の誤りがございました。  
 深くお詫びいたしますとともに、ここに訂正させていただきます。  
 2014年2月 (株)学芸出版社

頁	該当行/箇所	誤	正
24	図2・7	(資料:全国都市交通特性調査/平日、全国計)	▷ 削除
25	8行目	A社は1割が5000万円	6000万円
35	図3・11	待ち時間の確立分布	確率
102	14行目	～という仮設を検定するための～	仮説
105	3行目	説明変数間で高い相関ある	がある
114	18行目	表11・2の融合段階2(5、6)	2、4と(5、6)
120	21行目	目的関数の両辺にマイナスを掛けます。	制約条件
122	6行目	この切片が最適値	このときのzが
	例題12-1	変数x3	▷ 削除
123	11行目	可能解が小さくなりますので、最適解も減少	最適値
	13行目	限界値が大きいかということ、その説明変数が目的関数に強く影響～	制約条件
124	図12・4キャプション	式12・2に関する～	式12・1
	解答例1行目	～端点は移動しないので～	～最適解となる端点は
125	図12・5	$x_2 = -3x_1 + 44$	▷ 削除
128	式(13・4)	変数x3	▷ 削除
155	15行目	代替案A、Bの評価を30年間の	50年間
	16行目	ただし、各代替案の30年後の	50年後
156	例題15-1	16,600(百万円) 以上より、 $NPV_A > NPV_B$ 、 $CBR_A > CBR_B$ なので、代替案Aを選択することが効率的と判断できます。	14,600(百万円) 以上より、 $NPV_A > NPV_B$ 、 $CBR_A < CBR_B$ となり、 ・財源制約をあまり考えず、より大きな社会的便益を生み出すことが必要な場合は代替案A ・財源制約が強く、より効率的な財源の運用が求められている時には代替案B を選択することが効率的と判断することができます。
	演習問題15-1 表	利用者/供給者便益の期間 1～10年目 11～20年目 21～25年目	6～15年目 16～25年目 26～30年目